

平野区地域福祉計画 第2回策定委員会 会議要旨

日 時：令和5年3月3日（金）午後1時50分～午後3時15分

場 所：平野区役所 5階 501会議室

内 容：以下のとおり

1 開会

- ・策定委員会の記録と公開について、「大阪市審議会等の設置及び運営に関する指針」の主旨説明。発言内容の要旨、発言者氏名を記録した会議録、資料の公表について説明。

2 平野区長あいさつ

- ・アフターコロナということで、新しいステージに入っていくが、これから先も感染症への対応に気を緩めることなく地域における福祉活動の再開への支援や充実を続けていきたい。
- ・第1回策定委員会では、委員から多数ご意見をいただいた。また、パブリックコメントも多数いただいたので、本日区の方考え方を説明する。
- ・今年度内に地域保健福祉計画を策定し、平野区に関わる全ての皆様とともに「笑顔輝くまち ひらの」をめざして取り組んでいく。

3 策定委員・出席者の紹介

- ・別紙1・2のとおり

4 議事内容

- ・第1回平野区地域福祉計画策定委員会及びパブリックコメントにおけるご意見と修正などの考え方を説明。第3期平野区地域保健福祉計画の概要版の作成スケジュールについて説明。
- ・パブリックコメントの9件が多い少ないあると感じる人もいるが、自治体によってはパブリックコメント0件も珍しい。数より貴重な意見をいただけたことはありがたい。概要版の作成について、計画の周知、計画を作だけでは不十分で、いかに周知をするのかが必要。
- ・自立支援協議会の当事者部会の人からの意見で、災害時にカテーテル等の使い捨てが無理でも、消毒して繰り返して使える物があれば何とかなると思うが、各避難所に配備されているのだろうか。被災したら避難所に避難すると思うが、その時に医師会としてどういった備蓄をしているのかと聞かれている。
- ・医師会では、感染症対策でマスク、ガウン、フェイスシールド、手袋等の個人部分の備蓄はしている。しかし、カテーテルや医薬品等を含めて医師会では備蓄できない。災害時には、各開業医や病院等から必要な物を持ってくる以外ないと思う。医師会が主体的にするには限度があるので、行政が中心となってほしいし、行政でないとできないと思う。

医師会としても協力できると思う。

- ・各避難所の備蓄物資は、避難者への水や食糧を全員分賄えない数しかなく、加えて医薬品となると、管理もできない。一方、衛生用品、生理用品等については、危機監理室でローリングストックして方針。自立支援協議会の当事者部会の人と話した時に、災害時は避難等を諦める意見もあった。社会とつながる意欲のある人たちが避難を諦めてしまったら、障がいのある人はどこにつながって良いのか迷うことになるので、考え直してほしいと伝えた。区役所としても要支援者と地域をつなげていきたい。また、意欲的な訪問看護ステーションの事業者もいるので、地域で行われている防災訓練等と連携できるよう支援したい。
- ・避難所にどれだけのベッドを用意できるのか等、具体的な取組を少しずつ考えてほしい。南海トラフ地震が起きた時に、例えば訪問看護事業所がどれだけ来れるのか、実際動けるのか、住民も期待しているので、関係機関同士の協力体制を作っていく必要があると思う。
- ・災害対策基本法が改正されたので、障がい者や要介護度の高い人に対して具体的な避難計画を策定することが定められているので、しっかり進めたい。各地域の防災訓練等に要支援者が参加できるような周知、啓発に引き続き取り組んでいく。大阪市では職員の動員計画に基づいて動くが、避難所を開ける程の職員が参集していないことが想定されるので、各連合町会さんに学校施設の鍵を預けている。
- ・大規模巨大地震が発生すると、行政の役割は緊急時の対応もあるが、多くの人々が被災しているため、ボランティア等の外部の力をどうコントロールし、マネジメントするのかを、区社協と連携しながら進めていかなければならない。平時から災害が起こった時には、どの連携体制を取りながら外部の力をコントロールしていくのかということを、行政の訓練としては必要と思う。例えば、避難訓練を考えた時に、要支援者を誰が助けに行くのか、住民にはイメージしづらいので、要支援者と一緒に避難訓練に行ってみると、イメージしてもらいやすく、個別避難計画の策定が進むケースもある。
- ・コロナ前に実施していた防災訓練のほとんどは、ロープワークや三角巾、可搬式ポンプの使用訓練等、防災リーダーの実技訓練。この2、3年で避難所を開設する訓練に変更されてきた。避難所を開設したら、医療関係者の協力がなければ避難所を上手く運営ができないので、地域の医療関係者に声をかけて良いか。
- ・医師会として行政との連携を作っていきたいと思う。何をどうするか、具体的な話は医師会だけではできないので、これから行政を含めて連携していきたい。
- ・各地域の医療関係者と協議し、実際に訓練に参加してもらおう等、呼びかけをさせていただきたいので協力をお願いしたい。
- ・計画の見直しだが、3年で中間振り返り作業を行うとしているが、何かあれば途中で、随時対応していく等、この計画に含まれていないことも出てくると思うので、3年と決めなくても良いのではないかな。

小学校のこどもが認知症の人に声をかけて、通報し無事帰宅できた事例を聞いた。学校教育でも認知症に対する、認知症サポーターを養成していくことが厚労省からの通知で出ているそうだが、こどもや学生に対する養成講座について計画に含めてみてはどう

か。

- ・計画に記載のない内容、見直さなければならない内容がある時には3年と待たず修正していく。
- ・パブリックコメントで、保育士の増員の意見があったが、保育士になりたい人が少なく、私の法人も保育士が集まらない状況。平野区は待機児童がいない状況となっているが、兄弟姉妹が一緒に通えない現状があり、なるべくして兄弟姉妹一緒に保育園が良いと思う。

障がい児を受け入れる時に加配の先生が取れないという現状がある。

- ・保育所の状況について、計画に含めていくこととは別に区としてどうするかを検討が必要。認知症サポーター養成講座がコロナ禍で実施できない時期が続いた。大阪公立大学ではゼミを開いて開催する工夫をしたところ、他の区や自治体からも参加を希望する声があった。その時々状況に合わせてながら、区内の資源を活用・連携しながら新たなモノを創り出していくことも、地域のことを考えていくこと上では必要と思う。
- ・第2期計画の概要版は非常に内容が良くて見やすい。第3期計画の相談先リストを概要版掲載してほしい。
- ・概要版は、6月を目途に作成していく区民の方が見やすいもの、伝わりやすいものを考えている。様式・内容は検討中。
- ・南海トラフ地震について、周期的に起きていることを追記してほしい。知らない人により強く伝わると思う。
- ・この計画を見た人が危機感を高めながら危機意識を持ち、我が事として南海トラフ地震について考えられるような表記の工夫が必要。
- ・以前作成した「外遊びのマニュアル」の追記をしてみてはどうか。マニュアルを活用すれば、こどもへの楽しいイベントができる。
- ・計画に写真を多用していると感じた。最後のページには地域活動の写真が多く掲載されており珍しいと思った。
- ・各地域で行われている活動の写真を集めてみた。コロナ禍で活動を自粛したり工夫しながら地域の住民のために取り組んでおられる写真を掲載したかった。少しでも多くの住民や専門職に見ていただき、身近な計画にしたい。
- ・計画は私たちが日々行っている活動と別物ではなく、つながっていることを一人でも多くの区民が感じるのではないかと思う。
- ・この計画はどのように配架するのか。
- ・概要版をつくり周知していくが、計画も必要数を必要な場所に配架していく予定。
- ・要援護者名簿を活用した見守り活動を瓜破西地域で取り組んでいるが、加美地域でもモデル町会を選定して実施している。普段から、要援護者や気になる世帯等を町会役員や民生委員児童委員等が見守り活動していくことを広めていただきたい。
- ・個別避難計画については、各区が色んな形で進めていると思うが、形だけ作っても意味がなく災害時には実際に使えない。要援護者名簿についても、恐らく地域の中には名簿に名前が載っていない人でも実際には助けが必要な人がいるので、ゆるやかな見守り活動やつながりづくりを進めていくことが重要。

5 平野区長あいさつ

- ・国が推奨する計画の期間が5年とされており、各区区長の任期が4年、計画期間に改定や見直しに携われない区長もいることから、3年が良いとの方針が出ている。法律も変わる可能性もあり、必要に応じて随時修正していくことになる。
- ・「平野区のこどもたちを元気にする宣言」や「こどもたちの生きる力育成プロジェクト＋10」等、以前に作成した良い取組があるので再度周知・リニューアルしていきたい。
- ・地域福祉を持続可能なものにするためには、住民が健康で地域の暮らしを続けることができれば、助けられることもあるけど助けることもある、そんな状態が長く続いていくことが持続可能につながると思うので、医師会・歯科医師会・薬剤師会と連携していく必要があると思う。
- ・地域で活躍している保健師もこの計画の担い手の一人として、役割をしっかりと位置付けたいと考えている。福祉と医療、福祉と介護、福祉と教育等、様々な分野と密接に連携していることから、今後もしっかり取り組んでいく。